

子どもワークショップ（S2-第4回）
「大人が考えた『子どもの権利』を守るために大人がしなければならないこと」
意見考察（事務局作成）

- 大人が考えた「子どもの権利を守るために大人がしなければならないこと（各主体(大人)の役割）」に対して、否定や反対する意見は若干数ありましたが、いずれの主体に対しても「○(いいね)」と示された意見が多くありました。

- 「△(いまいち)」「×(無くていい)」とされた意見は、「育ち学ぶ施設」の一例として示した「図書館」（3ページ）の大人に対するものが15件(うち「×」は4件)で一番多く、「本を借りるという目的で訪れる施設では、悩みを相談するまでの関係性は求めない」、「図書館としてははじめ等に気付いたときに学校に知らせることは必要だが、相談は図書館の仕事ではないのでは」というその場所（施設）の性格を踏まえて考えた意見が挙げられており、「育ち学ぶ施設」というくくりの中でも、子どもが大人に求める役割が異なっていることが分かりました。
その他には、「保護者や外部の機関との連携」について、「図書館のような個人で楽しむ場所の場合、保護者と連携することが必ずしもいいわけではない」、「外部と連携するときは本人の意思を確認して適切に」という意見や、「子どもにとって最もよいこと」について「大人と子どものスペースを分ける」、「多様なニーズに応えるとともに、アンケート等を実施して使いやすいかを確認してほしい」という意見も見受けられました。

- 他の主体においては、「書きぶり(表等)に関する意見」として、「漢字が多く難しい」、「言葉の意味や具体的な内容、誰がやるのかがわからない」という指摘がありました。
また、育ち学ぶ施設の「大人がしなければならないこと」のうち、2つ目「子どもの個性を重んじるとともに…」と3つ目「子どもの人格を尊重して…」について、「同じ内容じゃないの?」「一緒にしていいんじゃない」等の意見が複数ありましたので、1つに集約していくか、分けたままとする場合にはその違いをより明確に示す必要があると感じました。

- いずれの主体でも、「子どもの居場所となりうる（書いてある）こと」、「各場所や施設等の大人の負担を減らすこと」、「子どもにしかわからないことがあるから、子どもの意見や思いを聴くこと」、「どのような子どもの意見があったか、また聴いた意見がどうなったのかを伝えること」等を求める意見が多く挙げられていました。

各主体に対する意見

① 家庭(保護者) 総回答数：69票 内訳（○：62票・△：7票 ×：0票）

- ・肯定的な意見では、「あたりまえだけど、書かなきゃわからない親もいるから必要」等の意見がありました。
- ・一方で「子どもにとって最もよいことを考えること」に対して、「親と子の考えが合っていればいいが…」、「大人が考えた子どもにとって最も良いことが子どもにとってもいいとは限らない」、「大人の考え≠子どもの考え」等の意見が複数あり、「子どもにとって最もよいこと」を考えるうえで、「子どもの意見を聴き、それらを受け止めたうえで考えていく」という点をわかりやすく説明する必要があると感じました。また、「体罰や身体への暴力だけでなく「言葉による心への暴力」をしない旨についても記載してほしい」という意見がありました。
- ・表現について、「愛情」という表現が抽象的であり、人によっては「体罰」も愛情に含まれてしまうことを危惧している意見がありました。
- ・その他には、「大人が困ったりしたとき、それが解決されないと、それが子どもにも当たってしまう」等の懸念や、「親だって助けてほしいこともある」、「親の孤立を避ける」といった意見があり、子どもに対してだけでなく、子どもの親や保護者に対しても「協力や支援を求めることができる」ということが必要であると感じました。

②学校 総回答数：87票 内訳（○：79票 △：8票 ×：0票）

- ・「子どもの意見反映のための措置を講じる」、「どのようにして、どのくらい尊重されたのか説明」、「どの子どもにも安心できる安全な居場所であるように整える」という表現に対する肯定的な意見が多くありました。
- ・一方で「個性を重んじる」という表現に対しては、「大切だけど、全員を重んじるのは難しいと思う」といった意見や、「学校は校則や成績を重んじがち」など、現状を懸念する意見がありました。子どもたちの個性が、それぞれきちんと尊重されたと感じられるような対応を行っていく必要があると感じました。
- ・また、「子どもの悩みや困難に対して、外部の機関と協力または連携して応じていく」ことに対して、「勝手に連携するのではなく本人の意思を確認してほしい」といった要望や「外部の機関って例えばなにがある？保護者に伝わってほしくないときでも伝わってしまう？」等の疑問がでており、この点を分かりやすく説明する必要があると感じました。また、この点は、他の育ち学ぶ施設に共通する点であるということも分かりました。
- ・その他の意見から、「子どもの権利を知っていると、何かあったときに自分の身が守れるから教えてほしい」、「子どもからの意見はどのようなものがあつたか知らせてほしい」、「意見がどのようにして反映されたのか教えてほしい」など、子どもの権利について知り、自分の意見が尊重されているかを確認する機会や場が望まれていることが分かりました。
- ・「先生の負担軽減のために、先生のケアも大切」といった大人の負担軽減を求める意見も家庭と同様に出ていました。

③児童館など 総回答数：65票 内訳（○：62票 △：3票 ×：0票）

- ・「のびのびと成長できるよう、子どもを支える」という表現に対して、「多様なニーズに応えていくことが重要」という意見が出ました。子どもへの支援は一律に行うのではなく、その子どもにあった様々な手段で対応することの重要性を感じました。
- ・「子どもの気持ち、考え、意見に耳を傾け…」に対しては、「家庭では言えないこともある。家庭以外の居場所で、子どもの意見を聴いてほしい」という意見がありました。
- ・「子どもの悩みや困難に対して、外部の機関と協力または連携して応じていく」ことに対しては図書館と同様に、「勝手に連携するのではなく本人の意思を可能な限り尊重してほしい」という意見が挙げられました。
- ・「安全な居場所であるよう整える」に対しては、「身体的安全面の配慮を付け加えてほしい」といった意見が出ており、「子どもが安心安全な居場所を強く求めている」ことが分かりました。「保護者と協力して」という表現に対して、「家の人は仕事などがあり忙しくてできない。時間があるときにやればいい」という保護者に対して負担軽減を望む意見がありました。

④図書館 総回答数：49票 内訳（○：34票 △：11票 ×：4票）

- ・「どの子どもにとっても安心できる安全な居場所であるように整える」という点が肯定的に受け入れられていました。
- ・一方で「子どもの年齢や発達に合わせて、支える」、「子どもの個性を重んじ、子どもにとって最もよいことを考える」、「子どもの悩みや困難に対して適切に応じる」、「悩みや、困ったりした時に協力や支援を求めることができる」というこれらの表現に対して、「図書館の人にそこまでの役割・関係性を求めない」という意見が出ました。育ち学ぶ施設というくくりの中でも、大人に子どもが求める役割が異なることが分かりました。
- ・また、明らかないじめなどは「学校に通報する必要がある」とする一方で、「相談にのったり解決したりといったことは子どもをよく知る学校の先生に任せるべき」といった意見が出ました。子どもの状況によって適切な相談先等につなぐことが求められていると感じました。
- ・「保護者と協力しながら、子どもの成長や発達を支える責任」の表現について、「図書館と保護者の必要性はどのくらいか」という疑問がでており、図書館のような個人でも楽しめる場所における保護者との協力体制について目的等を示した方が良いと感じました。

⑤地域 総回答数：44票 内訳（○：41票 △：3票 ×：0票）

- ・大人の役割の「地域の一員」、「まちづくりや地域の活動に子どもが参加できるよう…」に対して、「一員であるってところが良い」、「まちづくりは子どもも含めて全員が理解・納得できるようにしなければならない」、「これ（参加）をとおして関わりの機会を増やす」などの肯定的かつ前向きな意見がありました。
- ・特に、「子育てについて理解を深める」、「保護者の仕事と子育てが両立できる環境を整える」ことについては、「子育てに理解がないと『子育てなんて簡単』『甘え』等と言って批判したりする人が出てくる」、「最近では、両親ともに働いている家庭が多いので、子どもがずっとどこかにあずけられていたりするのでどうかしてほしい」といった、子どものためにも、子育てをする保護者の環境を考慮する必要があるという意見が多くありました。
その他、「地域において、子どもや親が孤立しないよう適切に見守る」ことについて、「子どもだけでなく、親も含めての支援。家庭での問題を地域がサポート」など、子どもだけではなく親への支援にも目を向け、家庭の問題であっても地域の中で支えていくことが必要という意見もありました。
- ・一方、「△」の意見では、「地域の誰がやるんですか」、「誰向けなのかわからない」といった疑問が出ており、区民や事業者などの地域における主体をより具体的に表し、子どもとの関係性を明確に示すなど伝わりやすい工夫が必要であると感じました。
- ・表現については、「全体的に『なりません』がきびしい感じがする」、「漢字ばかりで難しい」
「子どもでもわかりやすくしてほしい。」といった意見がありました。

⑥区 総回答数：52票 内訳：（○：50票 △：2票 ×：0票）

- ・「子どもの気持ち、考え、意見に耳を傾け…」に対しては、「子どもの意見や気持ちに耳を傾けなければ、子どもにやさしいまちづくりはできない」、「子どもの気持ちに耳を傾けてくれるだけでもいいけど、より実現してくれるといい」という意見がありました。また、「支援が必要な子ども及び保護者に対して…」には、「大事！虐待を認知したら子どもが命を落とす前に積極的に行動に移してほしい」、「居場所の整備に努めなければ…」には「特にやってほしい」、「学校に行けない子に配慮した居場所があったらよい」、「子どもの権利の普及及び啓発」には、「ワークショップまで知らなかった。知って損はないし、学校等でも授業をして知ってもらおうのいいと思った」など、子どもの権利を保障するために区が行う取組について、積極的に進めることを求める意見が多くありました。
- ・一方で、「△」では、環境及び条件整備について、「子どものいい環境だけではなく、大人もいい環境をつくったらいんじゃないか」という広い視野を持った意見もありました。
- ・疑問として出された意見では、「環境及び条件整備をもっと具体的にしてほしい」、「検証する仕組みがわかりづらい」、「どのように検証する？」という指摘があり、実施に当たってはより詳細な内容をわかりやすく示していく必要があると感じました。
- ・表現については、「鑑み」、「条件」、「整備」などの難しい漢字を使わないでほしい、「啓発」という言葉の意味がわからないという意見がありました。